

サミットの成果と課題

東京外国語大学教授
(国際関係論)

中嶋 嶺雄



激動の国際経済、INF
(中距離核戦力)削減交渉
をめぐって詰め段階にさ
しかかった東西関係など、
数々の重要問題を背に、去
る五月八―十日に開かれた
第十三回先進国首脳会議
(ベネチア・サミット)
は、今日の国際社会におけ
る日本の役割を際立たせた
という意味で、画期的なも
のであった。

「日本問題」(ジャパ
ン・プロブレム)、「日本た
き」(ジャパン・パッシ
ング)が焦点になるのでは
ないかと一部に懸念されて
いたことは逆に、東西関
係や経済問題の討議で中曾

根首相の指導力が大いに発
揮されたことも、これまで
にない成果であった。

努力もしたよね。その結果
が、いま報いられたんだ
よ」と随行の外務省幹部に

最貧国にたいする五億ドルの
無償援助などを打ち出し、
日本と世界が当面する問題
の解決に積極的に取り組む
姿勢を示してきた。

このような政策は、当然
諸外国からは日本の黒字減
らし策としても期待されて
いるだけに、わが国として

ミットで議題になった農業
問題(生産者重視の農政か
ら消費者重視の農政へ)と
ともに、わが国の国内政治
が果たすべき宿題も多い。
六兆円の緊急経済対策によ
って内需は拡大しても、輸
入拡大につながらなければ
肝心の黒字減らしにはなら
ない。

な舞台である。そこで開か
れたサミットで、アメリカ
の指導力後退を今回ほど、
あからさまに見せつけたこ
とはなかったことも忘れら
れない。それは、たんにレ
ーガン大統領が、まもなく
引退してゆく指導者だから
では決していない。

日本の大きな役割、 国際立たせる 米の指導力 は逆に後退 西側が協調提携 米を支える必要

それは「開発途上国への
資金供与を増加させる」との
新たな措置を打ち出した日
本政府の最近のイニシアチ
ブを歓迎する」と経済宣言
に日本が特記されたことに
も示されている。

もらしたというが、この言
葉には多くの感慨がこめら
れていたであろう。

は今後の真剣な対応が必然
になろうが、現時点でこの
ような政策を提起できるの
は、やはり日本をおいては
ないのであり、この点でも
わが国の役割の大きさが再
認識させられたのである。

ないのだから、この点でも
油断は禁物である。

『ニューヨーク・タイム
ズ』(六月十二日付)が
「レーガン大統領は手ぶら
で出掛け、手ぶらで戻って
きた」と述べていたよう
に、レーガン大統領は中曾
根首相がカバンにいっぱい
おみやげを詰めていったよ
うなことは何一つできなか
ったのである。アメリカの

今回のサミット終了後、
中曾根首相はこの数カ月
本場にいろいろ苦勞もし、

二百億ドルの開発途上国向け
の資金(貿易黒字)還流計
画、さらにはサハラ以南の

世界は、これらの日本の
政策を公約として受けとめ
るであろうから、今回のサ

『ニューヨーク・タイム
ズ』(六月十二日付)が
「レーガン大統領は手ぶら
で出掛け、手ぶらで戻って
きた」と述べていたよう
に、レーガン大統領は中曾
根首相がカバンにいっぱい
おみやげを詰めていったよ
うなことは何一つできなか
ったのである。アメリカの

時の課題
7月号 300円+50円
●対談●大いに語ろう
**日本の富はドルで築かれて
いるんだよ** 小山五郎/伍堂輝雄

指導力後退が目立ったこと
は、今回の東西関係の声明
に「西側の結束」という言
葉が見られなかったことに
もつながっているといえよ
う。その意味でも、いまやサ
ミットは、強いアメリカに
支えられた西側の結束の場
から、西側諸国が協調提携
してアメリカを支えていく
場に変わりつつあるといっ
てもよいのかもしれない。